

## 新 著 紹 介

**Charophyta** By B. P. PAL, B. C. KUNDU, V. S. SUNDARLINGAM and G. S. VENKATARAMAN. 130 pp. 277+19 figs. Indian Council of Agricultural Research, New Delhi, INDIA. 1962

本書はインド地域(インド, パキスタン, ビルマ, セイロン)のソウ類モノグラフの第5巻として出版された。近年出版されたいくつかの類書同様に, 分類のほか生態, 形態化石など各方面に幅広く, しかも各専門家の分担執筆により, でき上っている。各分野の中でも reproductive morphology の項については, 著者の1人 SUNDARLINGAM を中心とする研究グループの人たちの最近の成果をもりあげ, 秀逸といえよう。ただ残念なことには, ページ数制限のためか, 比較的簡単に論じられたことで, せっかくならば今少し親切に書かれていたらという気がする。全ページの約 3/5 を占める分類の項目は, PAL と KUNDU の2人の努力と思われる。従来この地域については, この2人の外 G. O. ALLEN, S. C. DIXIT その他の人たちによる数多くの論文が出されているが, それらをまとめたものではなく, その点本書の出現はまさに期待にこたえたといえよう。ただ“monograph”とはやや趣をちがえ, これまでの全論文をまとめた review 形式をとっている。したがって原論文に対する critical な取扱いや, 原標本の再検討などはなかったようで, 私が発見している原記載と原標本の形質のくいちがい(例 *Chara nuda*)については気づかれていないのは残念である。もう1つのもの足りなさは, 分布に関しての引用論文なり原記載が記されず, また分布図を用意されなかったことで, とくにインドの地理に詳しくない人たちにあって不便を感じさせる。

とはいえ, 上質の紙に明瞭な印刷, とくに原図にまさる立派な挿図はすばらしい。シャジクモの分類学者のみならず, この類の一般的知識を得ようとする人びとにとっても貴重な本だと推したい。  
(今堀宏三—大阪大学教養部生物学教室)

---

## 学 会 録 事

### 会 員 移 動

(昭和38年8月16日より昭和38年12月15日まで)

新 入 会 (7名)

現在会員数 409 名

住所変更 (8 名)

本学会所蔵の雑誌及び論文別刷目録

(1962. 12. 1~1963. 11. 30 間に受領せしもの)

別 刷

- 山崎 浩： テングサ類増殖に関する基礎的研究，静岡県水産試験場伊豆分場研究報告第 19 号，pp. 1-92, 1962.
- 末松四郎： Morphological and Ecological Studies on Trentepohliaceae, Bull. Jap. Arts Coll. Wakayama Univ. Nat. Sci. 12: 15-52.
- 中沢信午： Tipos de Plasmolisis en Celulas Centrifugadas. An. Inst. Biol. Mex., XXXIII: 35-40, 1962.
- ： Polar Blister Formation in Furoid Eggs. Naturwiss. 50: 311-312, 1963
- ： カサノリの細胞分化と核細胞質関係，生物科学 (1963), 第 15 卷第 2 号, 58-63.
- ： Developmental Mechanics of Fucaceous Algae XX. Gradients in Susceptibility for Excessive Calcium Ions in Coccophora and Fucus Eggs. Bot. Mag. Tokyo 75: 468-472.
- 谷口森俊： 志摩，的矢湾における海藻の季節的消長，医学と生物学，Vol. 66, No. 1 pp. 27-29.
- ： 津海岸における海藻の季節的消長，医学と生物学，Vol. 66, No. 4, pp. 210-212.
- ： 矢作川川口付近の海藻，矢作川の自然，pp. 254-256, 1963.

### 雑 誌

Ботанический журнал: Tom. 47, Nos. 10-12., Tom. 48, Nos. 1-8.

日本菌学会会報: Vol. IV, Nos. 2-4.

水産庁内海区水産研究所研究報告: 第20, 21号.

海洋与湖沼: Vol. IV, Nos. 1-4, Vol. V, Nos. 1-2.

PHYKOS, Journal of the Phycological Society (India): Vol. I, Nos. 1-2.

### 単 行 本

谷口森俊: 日本の海藻群落学の研究, 井上書店 (1961).

### 本 学 会 記 事

昭和38年10月12日より15日まで、岡山大学に於いて日本植物学会第28回大会が開催されたが、それに先き立ち、10月11日に本学会の評議員会、講演会、総会、懇親会が玉野市渋川の岡山大学臨海実験所、海事研修所、国民宿舍玉野荘に於て次の如く盛大に開催された。

### 評 議 員 会

午前11時より午後1時まで岡山大学臨海実験所大広間に於いて開催。

出席者: (A) 評議員——川端清策・稲垣貫一 (北海道), 新崎盛敏・福島博・須藤俊造 (関東), 斎藤雄之助 (中部), 今堀宏三 (近畿), 藤山虎也 (中国・四国), 岡田喜一 (九州)。

(B) 会長——山田幸男。(C) 幹事——中村義輝, 片田実, 舟橋説往, 山田家正。

欠席者: 中沢信午 (東北), 米田勇一 (近畿), 八木繁一・生駒義博 (推薦)。(中沢・八木・生駒各評議員は夫々出席評議員に委任した)。

即ち、全評議員13名中9名出席、更に3名の欠席評議員の委任を加えて下記事項について意見を纏めた。

1. 昭和37年度庶務・会計報告の原案を検討、これを承認した。
2. 昭和38年度予算原案を検討、これを承認した。
3. 会費未納者に対しては、2年以上滞納した場合、雑誌の発送停止を予告し財源の安定を計ることに意見が一致し総会に提出することとした。
4. 10周年記念事業に関する件

昨年度総会に於いて本件の具体化は幹事会に一任すると決定したため、資料を纏めた結果、本誌第1巻第1号より第10巻第3号までの総索引を作成するのが妥当であると考えむね会長より発言があり全員これを了承、幹事側提出の原案について討議した結果、下記事項について意見の一致を得、総会に提出することとした。

(A) 第1巻第1号より第10巻第3号までの総索引を作成すること。内容、形式は著者別索引 (和欧とも) 和名及び学名、A5版 (“藻類”の大きさ) で約80頁。

(B) 頒布方法は全員に実費で頒布すべきであるとの結論に達し、全会員より臨時会費

を徴収することに決定した。単価は推定価格約 300 円。

#### 5. 東大海洋研究所に藻類部門の設置を要望する件

新崎・藤山両評議員より新設の東大海洋研究所に藻類部門がないことに対し、藻類学会より日本学術会議宛藻類部門の設置を実現するよう要望することを提案。討議の結果、藻類部門設置の建議書を作成し、藻類学会の名に於いて日本学術会議に提出する。但し同建議書は在京評議員が作成する。以上の如く結論をみた。

### 講 演 会 記 事

第 11 回本会総会に先立ち、講演会が午後 1 時より 4 時まで海事研修所講堂に於いて開かれた。尚本学会独自の講演会が開かれたのは今回が初めてである。又折柄来日中の米国ハスキンス研究所のプロバゾーリ博士 (Dr. PROVASOLI) が特別参加。講演会のプログラムは次の通り。(敬称略)

1. 藤 山 虎 也: アサクサノリの細胞学
2. 福島 博・小林艶子: 南極の淡水藻とくに珪藻について
3. プロバゾーリ: 藻類の栄養と形態, 発生
4. 渡 辺 篤: 微細藻類の保存について
5. 藤 原 輝 子: ダブリンの近況

### 第 11 回総会記事

本会第 11 回総会は、評議員会、講演会にひきつづき午後 4 時 30 分より 6 時まで海事研修所講義室に於いて次の順序に従って開催された。出席会員は 58 名。

開会の辞: 中村義輝幹事 会長挨拶: 山田幸男会長 議長選出: 慣例により地元会員の猪野俊平氏が選出された。

#### 議 事

A. 庶務報告: 本誌第 11 巻第 1 号末頁に印刷した昭和 37 年度報告 (自昭和 37. 4. 1 至昭和 38. 3. 31) に基づいて秋岡幹事から説明があり、異議なく承認された。更に昭和 38 年 9 月 31 日現在で会員数は 404 名に達したことを報告した。

B. 会計報告: 同じく第 11 巻第 1 号末頁の 37 年度会計報告に基づき、舟橋幹事より報告承認を得た。更に本年 9 月 31 日までの中間報告及び来る昭和 39 年 3 月 31 日までの予算概要につき説明がありました承された。

尚、会計問題に関連して近江彦栄氏より会費未納者は何年たっても会員の資格を失わないのかという質問があり、これに対して評議員会に於いて決定事項 (2 年以上の会費未納者には雑誌の発送停止を予告する) を中村幹事が説明し、2 年を単位にして何らかの処置をとることに意見が一致した。

#### C. 10 周年記念事業に関する件:

評議員会の決定事項に基づき、中村幹事より説明があり (評議員会記事参照)、その報告に基づき討議した結果、「藻類」の総索引を作ることに満場一致で決定、その細目につ

いては下記の如く決定した。

1. 形式, 内容は評議員会の決定に同じ。 2. 印刷部数は 600 部 3. 単価は 300~400 円 4. 頒布方法は臨時会費を徴収し全会員に頒布する。 5. 赤字が予想される場合は, 広告の掲載その他の方法で赤字の解消を計る。

D. 東大海洋研究所に藻類部門の設置を学術学会議に要望する件:

新崎盛敏, 藤山虎也両氏より, 新設の東大海洋研究所には藻類部門がなく, 浅海増殖研究の重要性からみて, 藻類部門の設置を強力に要望すべきであると説明があり, 討議の結果その主旨に賛成し, その方法として次の如く決定した。「在京の評議員が中心となり要望書を作成し日本学術会議に提出する」。尚本件の討議に当り要望書案のプリントが全員に配布された。

#### 出席者 (ABC順)

秋岡 英承	秋 山 優	新崎 盛敏	江越 千代子	榎本 幸人
藤山 和恵	藤山 虎也	藤原 輝子	福 島 博	舟橋 説往
古川 晏子	原田 市太郎	広瀬 弘幸	今堀 宏三	稲垣 貫一
猪野 俊平	猪子 嘉生	犬 丸 惣	入来 義彦	神谷 平
香村 真徳	川端 清策	川嶋 昭二	加崎 英男	喜田 和四郎
北見 健彦	小林 艶子	熊 野 茂	黒田 初子	日下部 次郎
正置 富太郎	御船 政明	三輪 知雄	中村 義輝	西林 長朗
西沢 一俊	野田 光蔵	尾形 英二	岡田 喜一	奥野 春雄
近江 彦栄	斎藤 雄之助	佐々木 正人	沢田 武男	瀬戸 良三
須藤 俊造	鷹取 晟二	田 中 剛	谷口 森俊	寺本 賢一郎
時田 郁	津村 孝平	植田 利喜造	渡 辺 篤	山田 家正
山田 幸男	山岸 高旺	吉田 啓正		(敬称略)

#### 懇 親 会

総会終了後午後 6 時 30 分より, 瀬戸の海に臨む国民宿舎玉野荘大広間に於いて盛大な懇親会が開かれ, 特別参加のプロバゾーリ博士 (アメリカ), ベンカタランマン博士 (インド) を含め出席者約百名の多きを数えた。地元世話人の猪野俊平氏・西林長朗氏より開会の挨拶が近江彦栄氏の通訳入りで行なわれ, その後, 山田会長, 玉野市長代理宮川観光課長の挨拶があり, 時田郁氏の音頭で乾杯, なごやかに会が始まり, 正面舞台では玉野小唄による踊り, 岡山県観光映画 (カラー, 英語版) の鑑賞等で時の経つのを忘れたが 9 時過ぎ猪野氏の閉会の挨拶で幕を閉じた。

以上各会の報告を終るに当り, 本学会開催のために最大の努力と熱意を払われた岡山大学猪野俊平氏, 西林長朗氏, 生物学教室, 臨海実験所, 玉野市当局の方々的心から感謝致します。